



大人になる前にできること

〔長野県〕

泰阜村立泰阜中学校 2年 南 優歌

私はこの地球が、今よりもっとよくなってほしいと思います。しかし、どうやら地球は私の思いと逆の方向に進んでしまっているようです。これから生まれる命が快適に過ごせるようにするために、行動を起こすときが来ているようです。

みなさんご存じの通り、マイクロプラスチックとは紫外線や波によって五ミリメートル以下まで細くなったプラスチックのことを指します。マイクロプラスチックの海洋流出により、海の生態系に大きな影響を及ぼしてしまっており、環境や人体にも少なからず影響を与えてしまう可能性も十分にあります。決して私達に関係のないことではないのです。何とかしなくてははいけません。

私がこう考えるようになったきっかけは、小学六年生の頃に環境活動家の露木志奈さんと会ったことです。露木さんは今の地球が「このままではもたない」と大学生で講演活動を始めました。そこで私は地球の現状について知りました。今まで気が付かなかった環境問題にも気が付かされました。その時露木さんはまだ小学生だった私でもできることがあるということをたくさん教えてくれました。

私が露木志奈さんと会って感じたことは、行動を起こすのに早すぎることはないということです。露木さんは「大学は待ってくれるけど地球は待ってくれない」と休学をしてまで行動を起こしています。今日の前で壊れてゆく地球を前に、自分には何がで

きるのかを考えた結果だったのではないかと思います。

私も「自分には何ができるのか」を考えたとき、一番すぐにできると思ったのは、「身近なところから変えていく」ことです。そこで私は発泡スチロールに目をつけました。私の祖母は植物が好きで、たくさんの花を育てています。しかし、植木鉢のかわりとして発泡スチロール箱が使われていたのです。発泡スチロールは細かいプラスチックのつぶが集まってできています。少しでも衝撃を与えてしまうと欠けて粉々になり、マイクロプラスチックと化してしまうのです。風などで川や海に流されてしまっは大変です。そこで私は本などを用いて、祖母を説得することにしました。初めは理解ができずに面倒くさがっていたものの、最後には納得し、今後は使わないようにすると約束してくれました。とても身近なところで海洋プラスチックゴミを減らすことができたのです。

私の好きな言葉に、露木さんの「大人になるまで待たなくていい」があります。本当にその通りだなと思います。全てを変えられなくても、私のようにできることが身近にあるかもしれません。子どもだからできないではなく、子どもでもできることを探して、地球をもっとより良くしていきたいと思います。小さな力でもそれが集まれば、世界を変えるほどの大きな力にすることができるのです。